

## 取組個票①5年間の取組全体概要

|               |  |  |
|---------------|--|--|
| ①取組名          | 取組04   | 148街区における大規模ガス発電機の配備   |
| ②対応する目標・課題    | ・災害時におけるライフラインへのエネルギー供給という課題に対し、災害時スマートエネルギーシステムを実現する。   |  |
| ③対応する評価指標・目標値 | ■評価指標: 地域防災拠点となる駅前148街区の各施設稼働のための電力の確保   | ■目標値: 未整備(平成23年9月)<br>⇒(災害時)地域防災拠点となる駅前148街区の事業継続(BCP)に必要な電力(※)3日分<br>※平常時電気使用量の6割分相当=2,100Kw/h(ガス供給遮断時は備蓄重油で約55%)<br>⇒(停電時)約60%の電力を確保(連続運転1,000時間)<br>(平成26年完成予定) |
| ④取組内容         | 駅前148街区は、災害時に防災拠点となる「スマートセンター」、避難所となるホール、ホテル、商業施設(飲食店)機能などを持つ施設であり、BCP(事業継続計画)対応が求められている街区である。そのため、地域の防災拠点となる駅前148街区内に、災害時においても平常時の約6割分の電力量を継続的に提供するためにガス発電を整備し、マルチエネルギー化(ガス発電の導入)を図る。<br>・ガス発電機で、計画停電時に約60%の電力を確保(連続運転1,000時間)<br>※ガス供給遮断時においては備蓄重油で約55%の電力を確保(72時間)  |  |
| ⑤エリア          | 柏の葉キャンパス駅前148街区  |  |
| ⑥主体           | 三井不動産株式会社、スマートシティ企画株式会社の参加企業   |  |
| ⑦活用した国等の制度    | 平成24～26年度 次世代エネルギー技術実証事業(経産省)<br>平成24～26年度 地域の再生可能エネルギー等を活用した自立分散型地域づくりモデル事業(環境省)  |  |
| ⑧地域の関与        |  |  |
| ⑨スケジュール       |  |  |
| 23年度          |  |  |
| 24年度          |  |  |
| 25年度          | 大規模ガス発電機の設置  |  |
| 26年度          | 大規模ガス発電機の稼働開始  |  |
| 27年度          |  |  |
| 28年度          |  |  |
| 29年度以降        |  |  |
| ⑩他の取組との連携     | 取組名: 駅周辺5街区のエネルギー管理・節電ナビゲーションを行う『柏の葉・AEMSセンター』のインターフェイスシステム整備<br>連携内容: 非常時における街区間の電力融通の司令塔であるAEMSセンターと連動し、状況に応じてエネルギー供給を行う。<br>取組名: 再生可能エネルギー地産地消システム<br>連携内容: 隣接する商業施設に設置予定のメガソーラー発電に加え、148街区計画に余剰電力があった場合は、非常用電力を他街区への供給も行う。<br>取組名: 非常時における街区間電力融通<br>連携内容: 148街区計画に余剰電力があった場合は、周辺5街区内にあるライフライン(避難所、地下水ポンプ、高層住宅のエレベーターなど)への優先送電を実現。   |  |
| ⑪自立・自律の方針・目標  | 駅前148街区は、災害時に防災拠点となる「スマートセンター」、避難所となるホール、ホテル、商業施設(飲食店)機能などを持つ施設であり、BCP(事業継続計画)対応が求められている街区である。そのため、地域の防災拠点となる駅前148街区内に、災害時においても平常時の約6割分の電力量を継続的に提供するためにガス発電を整備し、マルチエネルギー化(ガス発電の導入)を図る。<br>生活利便施設等の都市機能が集中するコンパクトシティの中心地区など、震災時においてBCP対応が求められる街区の、防災都市づくりのモデル事業として、全国の中心市街地への展開が期待できる。エネルギーの複線化を図ることにより、災害時においても自立的なエネルギー供給の可能性が高まると同時に、完全なエネルギー遮断のリスクを軽減できる。非常時に街区内で共有可能な発電機を設置する新しいモデルの有効性を示し、被災地区などへの防災力向上に貢献する。 |  |